

SOCIAL

コロナに負けない！ 能勢酒造が大阪産「いちごサイダー」を販売

豊能郡能勢町の能勢酒造は6月18日、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の影響を受けた農家のイチゴを使用した「農家応援 大阪いちごサイダー」の販売を開始した。府では、コロナに影響を受けた農林漁業者の情報を発信することで「応援購入」の輪を広げようと、公式HP内で「大阪産(おおさかもん)エールサイト」のページを作成。能勢酒造社長の子安丈士さんは、サイトで紹介されていた「いずみ小川いちご農家」(和泉市)が、体験摘み取りを中止してイチゴが大量に余ったことを知り、サイダーに利用しようと思いついた。府の支援を受け、能勢・桜川の名水で作った「桜川サイダー」とイチゴ果汁を合わせ、香り豊かで優しい甘さのサイダー

が誕生。府で生産された一次産品とその加工品である「大阪産」の認定も受けた。販売は能勢町観光物産センター、けやき資料館、けやきの里、JA大阪北部農産物直売所、ファミリーマート(大阪府内一部店舗)、近商ストア-LINKS UMEDA、川西阪急、Bistoriche(ピストリッシュ)、Makers+cafe、Dear N's kitchenで購入できるが、売り切れの可能性があるので事前に確認を。

大阪いちごサイダー
200ml 150円
(税抜)



CULTURE

「太陽の塔」が 文化庁の登録有形文化財に

1970年の大阪万博のシンボル「太陽の塔」が、8月17日、文化庁の登録有形文化財(建造物)として告示された。今年3月に開かれた国の文化審議会において、登録有形文化財にするよう萩生田文部科学相に答申されており、今回の官報告示をもって正式決定となる。

「太陽の塔」は、芸術家・岡本太郎によってデザインされた建造物。大阪万博では、建築家・丹下健三設計の大屋根を貫くように設置され、テーマ館の地下展示と空中展示を結ぶシャフトの役割も果たしていた。

こうした斬新な造形を、鉄筋コンクリート造や鉄骨造を混用し、さまざまな建設技術を駆使して実現していることから、登録

基準の「再現することが容易でないもの」に該当すると評価された。今回の登録により、吹田市内の登録有形文化財(建造物)は9か所・27件となる。

吹田市在住の女性は「市民にとっては愛着があるので、登録されたことはとてもうれしい。間近で見るとすごい迫力なので、たくさんの人に見てほしいですね」と話した。



SOCIAL

高校野球発祥の地・豊中から 球児たちへエールを

豊中市は、新型コロナウイルス感染症の影響で今年の全国高等学校野球選手権大会が中止になったことを受け、このかつてない事態と向き合う高校球児の声を届けようとメッセージを募集。8月19日の締め切りまでに多数の応募が集まった。

市が各都道府県高等学校野球連盟加盟校の硬式野球部員を対象に「今、伝えたい思い」をテーマに募集したところ、悔し

さや感謝の気持ちをつづったものが寄せられた。市民からは球児への温かいエールが届いた。担当者は「前代未聞の事態に向き合う高校球児たちの思いを知ってほしい」と話している。全国の野球部員の思いと市民のエールは9月1日から市HPで紹介するほか、メッセージの中から各1つをプレートに刻印し、高校野球発祥の地記念公園に設置する予定だ。

SOCIAL

箕面市 長期休業中の学童保育で 弁当購入システムを開始

箕面市が今年度の夏休みから長期休業中の弁当購入システムを開始した。市内にある14の学童保育室で希望する子どもを対象に、夏休みや冬休みなど長期休業期間の平日の昼食に弁当を提供する。保護者はパソコンやスマートフォンなどでウェブ上の専用サイトから登録し、コンビニ払いや銀行振り込みで一定食数の料金を前払いすると注文できる。1食

当たり税込み400円で、初回は8月3日～24日までお盆を除く平日に実施。8月中旬時点で市内の学童に通う児童約1,600人のおよそ3分の2に当たる約1,000人が登録している。担当者は「保護者の方から『負担が減って助かった』などの声をいただいているので、引き続き実施していきたい」と話している。

EVENT

今年でファイナル「ゆるキャラグランプリ」 地元ゆるキャラを応援しよう

全国の自治体や企業などのマスコットキャラクターの人気を競う「ゆるキャラグランプリ」が、今年で最後を迎える。同イベントは、2011年に「くまモン」が初代王者となり、ゆるキャラ人気を一気に押し上げた。ラストの今回は689体がエントリーし、北摂からはセッピーなす丸くん(摂津市)、いばらき童子(茨木市)、滝ノ道ゆる(箕面市)などが参加。9月25日までインターネット投票を受け

付け、10月に岩手で行われるイベント当日の決戦投票との合計結果でグランプリを決定する。公式HPからメールアドレスを登録すると1日1回投票できるので、地元のゆるキャラに投票して応援しよう。公式HPは「ゆるキャラ」で検索。

昨年の同イベントで6位と好成绩を残した「滝ノ道ゆる」くん。ファイナルも期待できそう!



SOCIAL

位置情報サービスで 子どもの安全見守り

豊中市は7月、関西電力送配電(大阪市)と「ICTを活用した見守りシステムの導入に関する連携協定」を締結した。同社の見守りサービス「OTTADE!(おったで)」が、子どもの安全をサポートする。まずは市南部地域の8小学校区で10月から運用を開始する。システムは市内の小学校や電柱、通学路沿いの商店などに設置された基地局が、端末から出ている電波をキャッチして

位置情報を検出する仕組み。子どものランドセルなどに取り付ける専用端末は、希望者に無料で配布する。親がアプリやウェブ上で子どもの位置を確認できる有料サービスと、子どもが行方不明になるなど万が一の場合に位置情報を提供する無料サービスがある。来年度に市内全41小学校区にエリアを拡大、再来年度には高齢者を対象とした実証実験も予定している。

コラム

COLUMU

フカボリ調査

各市 名前の由来

皆さんは、地元や近隣のまちの名前の由来についてご存じでしょうか。知っているようで知らない、少し気になる市の名前の由来について調べてみました。

【池田市】

有力な説は2つあるといわれています。1つ目は市に現存する最古の神社「伊居太(いけだ)神社」からとったもの。同神社は別名、穴織(あや)神社ともいわれ、機織りの技術を広めたという「クレハトリ・アヤハトリ」伝承のアヤハトリがまつられています。2つ目は、南北朝時代の乱戦の中、勢力を誇った豪族「池田氏」によるとの説も。

【箕面市】

箕面といえば「箕面大滝」。「日本の滝100選」としても知られ、毎年のように全国各地から多くの観光客が訪れるこの滝の

名前がそのまま地名になったという説が有力です。滝の名前の由来は、滝の表面(=面)が、穀物をふるいにかけて殻やゴミを振り分ける農機具「箕(み)」に似ているからだとか。「U」の字を逆にしたような形をした箕は、確かに岸壁から広がって落ちる滝の様子に似ています。

【豊中市】

「豊中」という地名が生まれたのは、1889(明治2)年4月の地方自治制が敷かれたことによって5つの村を合併し「豊中村」となった時のこと。摂津国豊島郡(せつつのくにてしまぐん)の中央にあった

ため名付けられたと伝えられています。

【吹田市】

古代から淀川水上交通の拠点であったこの地は、「行基年譜」の天平13(741)年記に「次田堀川(すきたのほりかわ)」と書かれていたのが初見とされています。「次田」と書いて「すきた」と呼んでいたのが、「すいた」に変化し、感じも「次」から「吹」に変化していきました。「水田」と書かれていた時期もあったようです。

いかがでしたでしょうか。市名の由来は土地の歴史に繋がっています。由来の多くは

伝承によるもので、確証のないものがほとんどですが、もっと深掘りしたら、思わぬ新発見があるかもしれません。

【参考文献】
日本歴史地名大系(28-2)大阪府の地名(平凡社)、参考ホームページ:茨木神社HP各自治体公式HP、観光協会HPなど

まちの気になるネタ、 編集部が調査します!!

日常に潜む、まちの気になるネタを読者のみなさんから大募集!どんな小ネタでも構いません。ドンドン応募のほど、よろしくお願ひします。

採用された方には素敵なプレゼントを進呈

【応募方法】

下記URLより応募ください。
採用の場合お電話にて連絡させていただきます。



摂津国の地図
【出典】国立公文書館デジタルアーカイブ
<https://www.digital.archives.go.jp/>

